

平成20年4月18日
第二管区海上保安本部

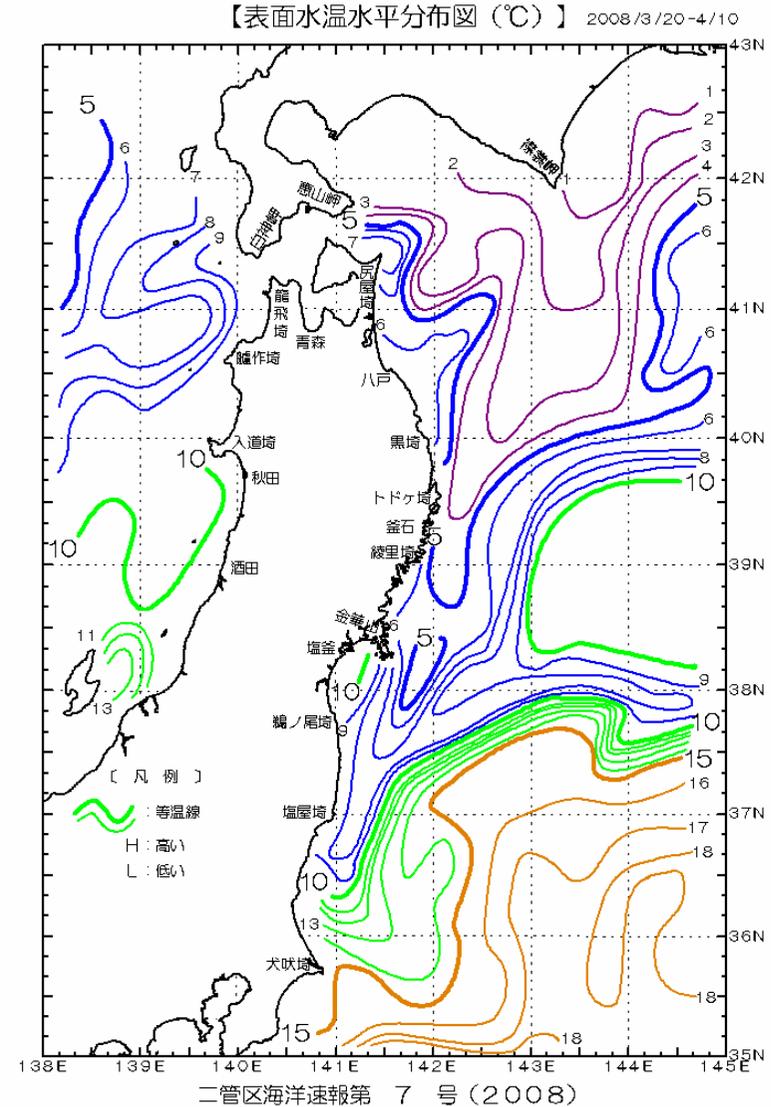
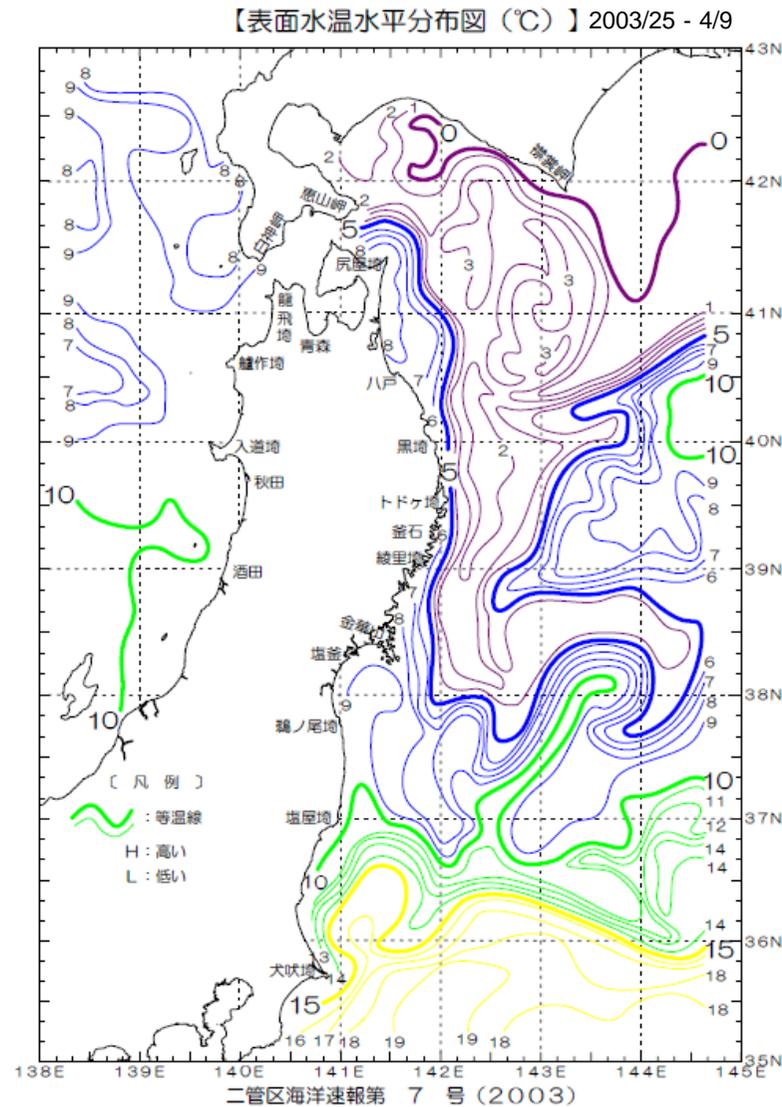
問い合わせ先
第二管区海上保安本部
海洋情報部 海洋調査課 おいかわ 及 川
電話 022 - 363-0111 (内線2530)

親潮(寒流)の顕著な南下について

——— 海中転落と海難発生に注意 ———

- 1 第二管区海上保安本部では、平成20年3月末までの東北地方の太平洋側の水温の分布等の海況(平成20年3月中旬の海況図参照)を精査したところ、昨年に比べ親潮の南下が顕著となっていることが明らかになりました。このため、3月21日発出の「二管区海洋速報第6号」により海事関係者、漁業関係者等に対し、その情報を提供しました。
- 2 この親潮の南下傾向は、最近5ヵ年のうち海霧の発生数が多かった平成15年に類似(平成15年と平成20年4月上旬の海況図参照)しており、当本部では今後の親潮の状況によっては、5年ぶりに海霧の発生が多くなるのではないかと考えています。
また、3月 鮎ヶ埼 での表面水温分布図及び海況断面図から、津軽暖流の潜込みがみられ、更に親潮の先端が金華山以南まで達していること及びこの時期南方から迫り出してくる黒潮系暖水の三陸沿岸への影響が弱いことから、4月下旬以降も引続き三陸沿岸域に親潮の存在することが考えられます。
- 3 過去の調査結果によると親潮の南下が顕著な場合、海霧の発生が多くなることから、当本部では、海事関係者等に対し「二管区海洋速報」により海況情報を提供するとともに、海水温度が5 前後と低いため、海中転落の防止と霧による視界不良時の衝突や乗揚げ海難の防止を呼びかけています。

平成15年と平成20年の4月上旬の海況



平成15年と平成20年の金華山から三陸沿岸の水温分布をみると、親潮の目安となる水温5 以下の海水が同海域に存在している。水温の比較では、平成15年が平成20年より北緯40度以南で2 ほど低目となっている。また、平成15年が平成20年とも三陸沿岸域での親潮は、接岸傾向となっている。

海霧関係資料

(平成14年度 - 平成19年度)

